

稲作だより 第2号 育苗編

令和6年4月4日

最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1333

浸種・催芽の時間に注意必要！！

令和5年産種子は休眠が深くなっています。出芽ムラを防ぐため、**浸種水温は12～15℃**とし、**十分な浸種日数**を確保しましょう（第1号参照）。

また、**例年よりも催芽に時間がかかる**ことが懸念されます。**必ずハト胸状態**を確認してから播種しましょう。

播種量と育苗日数

苗の種類	播種量の目安(g/箱)		箱数の目安 (枚/10a)	育苗日数 (日)	移植時葉数 (枚)
	乾籾	催芽籾			
中苗	100	125	30	35	3.5
稚苗	150	188	25	25	2.5
高密度播種苗	250	313	～15	15～20	2.0

育苗日数が長期化した(老化)苗で移植すると初期茎数が確保しにくいいため、**播種日を移植日から逆算して決めましょう。**

育苗中の温度管理

時期		日数	温度		管理のポイント
			昼間	夜間	
出芽期	加温	約2日	30～32℃		・覆土から5～10mm程度出芽させる。
	無加温	約1週間	32℃以下		・保温資材や換気を行い、35℃以上にならないように管理する。
緑化期 (1.0葉期)		約3日	25～30℃	15℃	・朝夕や曇天日は遮光資材をはがす。 ・晴天時はハウス内の気温が上がりやすいため、早めに換気する。
硬化期 (1.5葉期以降)		播種量等による	15～20℃	8℃以上	・移植1週間前から外気に慣らす。

プール育苗の場合は、1.5葉期に育苗箱上まで入水(病害の発生を抑制するため)し、夜の気温が5℃を下回らないようならハウスを開放して管理しましょう。

苗の不揃いを避けるためのポイント

- 育苗ハウス等の地面を均平にする。
- 浸種水温 10～15℃で、積算水温 120℃(約 10℃×12 日間)を確保する。
- 播種時に十分(覆土にしみ上がる程度)に灌水する。
- (無加温出芽では)マルチ下に温度計を設置し、32℃以下になるよう管理する。

苗の病害と対応

病名	症状	原因	対応[薬剤例]
苗立枯病 (総称)	培土表面にクモの巣状の白いカビ	病原：リゾープス菌 出芽時の高温多湿 厚播き	高温、過湿を避け、日光に当てる。 [ダコニール 1000]
	地際部や籾周辺にピンク色のカビ	病原：フザリウム菌 pH5.5 以上の床土 低温、乾燥、過湿	低温を避け、土壌の湿度を適切に維持する。 [タチガレン液剤]
	地際部に緑または白いカビ	病原：トリコデルマ菌 緑化期前後の低温、 保水力が小さく pH が低い培土	低温、乾燥を避ける。 [ダコレート水和剤]
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	第 2 葉身の真中から基部にかけて黄変または白化 伸長停止後、枯死	出芽後の高温・過湿	高温・過湿を避け、発病した苗は廃棄する。

※薬剤による防除を行う場合には、必ずラベルを読み、使用方法等を遵守してください。

昨年度、最上地域でもみ枯れ細菌病による苗腐敗症状(坪状に枯死した苗が容易に引き抜ける)が発生したハウスが散見されました。この病害は、催芽～緑化期の高温(32～35℃)と多湿により発生が助長されます。

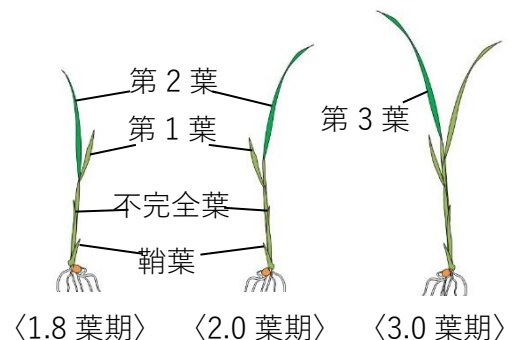
天気予報を確認して、**過剰な灌水と高温育苗とならないよう管理しましょう。**



もみ枯細菌病による苗腐敗症状

適期の追肥で健苗を移植

苗の種類 (移植時葉数)	追肥時期
中苗(3.5葉)	2.0葉期、3.0葉期
稚苗(2.5葉)	1.8葉期
高密度播種苗(2.0葉)	移植の5～3日前



追肥量は、1回につき窒素成分で1g/箱が目安です。

高密度播種苗でも、育苗期追肥することで、移植後に初期生育が確保しやすくなります。